

言えなかったありがとう

ラジオネーム：M

熱帯夜が続く去年の8月のことだった。

近頃あまり鳴っていなかったスマートフォンに、着信音が鳴った。

誰だろうと表示を見ると、大学時代のサークルの後輩Eちゃんの名前。

「あら、珍しい！」と弾んだ声で電話にでると、あの頃と変わらぬ

懐かしい声。「先輩、お久しぶりです。」何やら周りが騒々しい。

「元気だった？にぎやかでいいねえ。今どこ？」「今、東京の

S先輩のお宅に、サークルの仲間が集まっているんです。実は…

K子先輩が亡くなられて… K子先輩、にぎやかに飲むのが

大好きだったから、S先輩が、サークルのメンバーに呼びかけて、

飲みながら昔話に花を咲かせているんです。「Eちゃん、

大阪から駆けつけたの？」「たまたま仕事の用事もあったんで、

同期も何人か行くっていうので来ちゃいました。」

Sさんは私が大学1年の時の4年生。豪放磊落な頼れる兄貴的な

存在で、ご自分の就職活動中も私たち新入生の様子を気にして、

ちよくちよく飲み連れて行ってくれた。そのSさんの結婚相手が、

Sさんより1年年上のK子先輩。私たちが入部した時には

卒業されていたので、年に何度かのイベントの時に

お目にかかる位だったが、姉御的なキャリアウーマンで、包容力のある姿に、同性の後輩としてまぶしく見えた。

しばらくして、S先輩がK子先輩と結婚されたと聞いて、

「最強のカップル」だと話題になった。

子宝に恵まれたのは、40を過ぎた頃。妊娠がわかるや、きっぱりと仕事をやめ、子育てしながら、通信制大学で染色を学んだり、自宅で子育てサロンを開くなど、ライフステージの変化にあわせてしなやかに活躍されている様子を示していただいた。

病気がわかってからは、小学生のひとり息子に変わっていく

自分の姿をつぶさに見せ、ふたりきりでいろんな話をしたと聞いた。

最期まで先輩らしい生き様。忘れません。

初めてのお盆に、K子先輩のことを思いながら、この曲を届けます。

リクエスト曲

へ 何度でも

／ ドリームスカムトウルー

く